

せい か わん  
青花碗  
ばい か もん  
梅花文

■ 出土地：東村跡（那覇市）

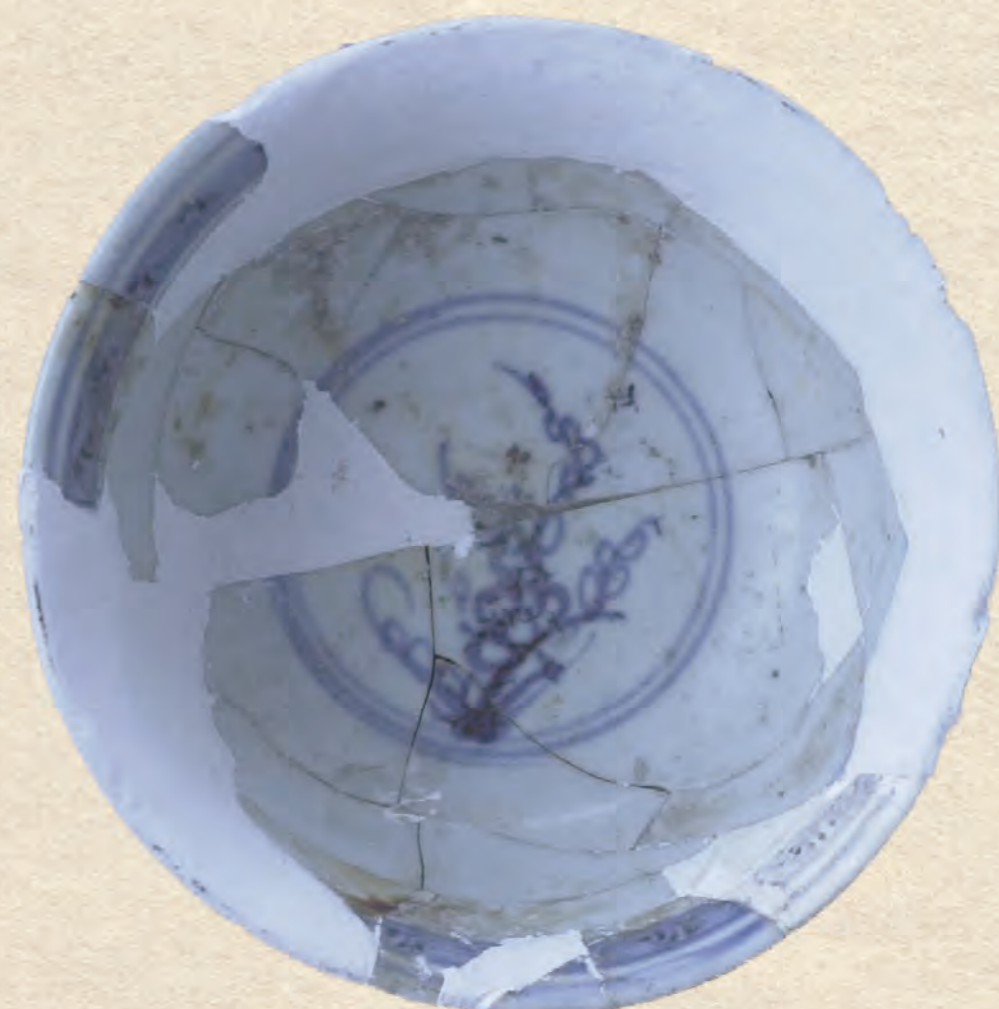
この磁器の破片は、<sup>あがりむらあと</sup>東村跡の発掘調査により出土したものです。東村は西村、泉崎村、若狭町村とともに「<sup>な は よ まち</sup>那覇四町」と称され、那覇港の繁栄に伴って栄えた商業の中心地でした。この磁器は青花とよばれ、15世紀中頃から後半にかけて中国の<sup>けいとくちんよう</sup>景德鎮窯で焼かれたものです。外面腰部に<sup>からくさもん</sup>唐草文、そして内底に梅花文が施されています。梅花は月と枝、幹がセットとして描かれることがおおく、総称して「<sup>ばい げつもん</sup>梅月文」と言われます。展示資料は、かなり簡略化が進んでいるため梅花は丸文のみで、月は描かれていません。中国で梅は、老木でも新しい枝が生え寒い時期に花を咲かせることから不老長寿の象徴とされています。また、俳句では春（2月）の季語とされています。

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し出土品を、月替わりでご紹介。

2月は、青花の碗に描かれた文様についての紹介です。



▲東村跡出土の青花碗外面（唐草文と圏線）



▲京の内跡出土の青花碗  
（簡略化された梅月文）